

Allegro assai
Baritone Solo

Freu - de, Freu - de, Freu - de, schö - ner

Freu - de, Freu - de,

Allegro assai

Ob.
Clar. dolce
Ag.
Cor.
Archi pizz.
pp
Clar. I
Archi pizz.

Göt - ter - fun - ken, Toch - ter aus E Wir be - tre - ten feu - er - trun - ken,

Him - ni - sche, dein Hei - lig - tum, ne - au - ber bin - den wie - der, was die Mo - de

streng ge - teilt, al - le Men - schen wer - den Brü - der, wo dein sanf - ter, Flü - gel weilt.

Legni
cresc.



2025春日井市民第九演奏会

とき 2025.12.7 (日) 15時開演 ところ 春日井市民会館

主催／春日井市・春日井市教育委員会・公益財団法人かすがい市民文化財団・春日井市民第九演奏会実行委員会

共催／春日井市交響楽団、春日井市民第九合唱団

後援／中部大学、中日新聞社



2025春日井市民第九演奏会実行委員会名誉会長

春日井市長 石黒 直樹

本日は、2025春日井市民第九演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

本演奏会は平成5年に市制50周年記念事業として開催し、年末の恒例行事として市民の皆さまに親しまれてきました。今年で32回目となるこの演奏会を開催できることを大変喜ばしく感じると同時に、団員として活動いただいております皆さま方の熱意と、井村誠貴氏を始めとする歴代の音楽監督・指揮者、関係者の皆さま方のご尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。

今年の前曲は、世界的に有名なミュージカル「レ・ミゼラブル」の劇中歌から、シェーンベルク作曲『民衆の歌』をお届けします。本日の合唱団の歌声が、ご来場の皆さまの心を震わせ、素晴らしい演奏会になることを大いに期待しております。

今年も残すところあと僅かとなりました。これから迎える新しい年に思いを馳せながら会場に響き渡る壮大なオーケストラと力強い歌声が彩る第九の調べを、どうぞ心ゆくまでお楽しみください。



2025春日井市民第九演奏会実行委員会会長

中部大学長 前島 正義

「2025春日井市民第九演奏会」にお越しくださり誠にありがとうございます。1993年に春日井市制50周年を記念して始まったこの第九演奏会も32回目を迎えることができました。皆さまのご協力、ご支援と熱意に支えられ、今年も開催できますことを心から嬉しく思います。

今回も音楽監督・指揮者には井村誠貴氏をお招きし、フランスの作曲家クロード＝ミッシェル・シェーンベルクの代表作、ミュージカル「レ・ミゼラブル」セレクションより『民衆の歌』をお届けします。ミュージカルの劇中歌ではありますが、困難に立ち向かう人々の姿を描き、多くの場面で歌われるこの曲に、心励まされた方も多いのではないのでしょうか。私もその一人です。

そして、年の瀬を締めくくる、ルードヴィッヒ・ヴァン・ベートヴェン作曲の交響曲第9番「第九」では、4人のソリスト、奥村育子氏、森季子氏、城宏憲氏、西元佑氏と共に感動の合唱をお届けします。世界が戦争と分裂と独立・統合に明け暮れていた1824年に発表された「第九」は平和と希望、そして人と人との絆を象徴する不朽の名作です。人々を喜びで包み込み、魅了してやまない「歓喜の歌」が皆さまの心に響き渡り、より一層絆を深め、穏やかで豊かな世界に向かっていけることを願っています。



2025春日井市民第九演奏会

音楽監督 井村 誠貴

《創造者は未来を想像したか!?!》

1824年、ベートーヴェンが創造した《交響曲第九番》。200年経った今も世界中で愛され、日本では年末の風物詩として定着しています。毎年150回以上演奏されるその数は、母国ドイツを大きく上回り、日本が《第九大国》と呼ばれるゆえんです。第九はその壮さゆえに、ヨーロッパでもそう頻繁には演奏されません。だからこそ、指揮者にとっては特別な夢であり、オーケストラにとっても看板となる存在です。日本で第九を指揮したいと願う海外の音楽家も少なくないと聞きます。楽器や演奏技術が進歩した今、第九はかつてよりも力強く豊かな響きをもつようになりました。もしベートーヴェンが現代の演奏を耳にしたなら、きっと驚きとともに喜んでくれるのではないのでしょうか。彼は未来の音楽を創造しただけでなく、私たちに未来を想像させ続けているのです。録音や動画配信で音楽が手軽に楽しめる時代になっても、生演奏の《第九》には、その日、その瞬間にしか出会えない響きがあります。同じ曲でも演奏ごとにまったく違う感動が生まれる—その一期一会を楽しめるのがコンサートの醍醐味です。未来へ受け継がれるべき宝物《第九》。どうぞ《春日井第九》を心ゆくまでお楽しみください。





プログラム Program

C.mシェーンベルク 作曲／ボブ・ロウデン 編曲
Claude-Michel Schönberg／Bob Lowden

ミュージカル「レ・ミゼラブル」 セレクションより『民衆の歌』 ほか

Selections from Les Misérables

ルードヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェン 作曲
Ludwig van Beethoven (1770-1827)

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付」

Symphony No. 9 in D minor op.125 "Choral"

第1楽章 アレグロ マ ノン トロッポ エ ウン ポコ マエストーソ
1st mov. Allegro ma non troppo e un poco maestoso

第2楽章 モルト ヴィヴァーチェープレスト
2nd mov. Molto vivace – Presto

第3楽章 アダージョ モルト エ カンタービレ アンダンテ モデラート
3rd mov. Adagio molto e cantabile – Andante moderato

第4楽章 フィナーレ：プレストーアレグロ アッサイー レシタティーヴォーアレグロ アッサイ
4th mov. Finale: Presto – Allegro assai – Recitativo – Allegro assai



管弦楽 春日井市交響楽団

春日井市交響楽団は、ベートーヴェンの「第九交響曲」の演奏会を春日井市で開きたいという市民の思いから生まれた「市民が演奏し、市民が聴く」オーケストラです。1990年に創設され、現在、団員は約50名で、毎年7月の定期演奏会と12月の第九演奏会を中心にオーケストラ活動を行っています。本年7月の定期演奏会ではラフマニノフ作曲の交響曲第2番を取り上げました。この曲は演奏時間が長く、しかも、演奏技術的にも難しい曲でしたが、ご来場の皆さまに熱のこもった演奏を聴いていただけたのではないかと感じています。「第九」も「ラフ2」と同じように演奏時間が長く、演奏技術的にも難しい曲です。何度経験しても大変な曲ですが、毎年、新たな気持ちで第九に取り組んでいます。今後も、様々な場面で良い音楽をお届けできるよう努めていきたいと考えていますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。最後になりますが、第九演奏会の開催に当たり、ご尽力いただきました関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

(団長 後藤 哲也)



合唱 春日井市民第九合唱団

春日井市民第九合唱団は、1993年(平成5年)春日井市制50周年記念行事として開催された「第九演奏会」の初演を機に、市民公募により結成されました。それ以来、毎年春に団員を公募しています。春日井市が掲げる「文化都市宣言」のもと、「産学官」が一体となり歩んできた「第九演奏会」は、今年で32年目(32回)を迎えます。音楽監督や各合唱指導の先生方の熱心な指導を受け、12月に開催される市民による手作りの「第九演奏会」に向けて、ベートーヴェン作曲「交響曲第九番二短調作品125」第4楽章「合唱」を歌い続けています。今年度も6月に結団式を行い、前向きに熱い気持ちを持った17歳から90歳の新しい精鋭達も加わり、団員は166名となりました。井村音楽監督の企画で始まった前曲に今年度は新たな挑戦として、ミュージカル『レ・ミゼラブル』より『民衆の歌』に取り組み、ハーモニーを大切にしながら練習に励んでいます。本番では、団員一体となった心からの「歓喜の歓び」歌声・叫びを観客の皆さまにお届けし、「今できる最良の第九演奏会」にしたいと考えております。最後に、第九演奏会の開催にあたり、ご尽力を賜りました関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも末永くご支援を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

(団長 黒澤 清海)



「C.mシェーンベルク作曲／ボブ・ロウデン 編曲」
ミュージカル『レ・ミゼラブル』より『民衆の歌』ほか
「戦うものの歌が聞こえるか…？」

「レ・ミゼラブル (Les Misérables)」はフランスの作家ビクトル・ユゴーの同名の小説(邦題「ああ無情」)を原作としたミュージカルで、日本では1987年に帝国劇場で初演され、その後38年間での上演回数は3,500回を超えました。そのうち500回余りの指揮を2025春日井市民第九演奏会音楽監督の井村誠貴氏が務めています。

時は1815年。革命後のフランスでは、ナポレオンが失脚し王政が復活していました。妹の子供のために1斤のパンを盗んで投獄されたジャン・バルジャンは19年の刑期を終えて仮釈放となりましたが、仮釈放の人間に世間は冷たく、世の中を憎んだバルジャンは、食事と宿を与えてくれた司教からも銀の食器を盗み警察に捕まってしまう。バルジャンは「食器は司教がくれたのだ」と嘘をつきますが、司教はそれを否定しないばかりか、さらに高価な銀の燭台を「忘れ物だ」と言ってバルジャンに差し出します。「これを使って正しい人になりなさい」という司教の言葉に、バルジャンは名前を捨て新しく生きなおすことを決意するのでした。

1832年、パリ。バルジャンは彼を執拗に追うジャベール警部から逃れるため名前を変え住処を転々としながらも、娘のコゼット(実子ではなく病死したファンテーヌの娘)と幸せに暮らしていました。ある日、学生運動のメンバーであるマリウスは、街でコゼットを見かけ一目惚れをします。マリウスは彼にひそかに思いを寄せるエポニーヌにコゼットを探してくれと頼みます。

コゼットもマリウスと同じ気持ちであると知ったバルジャンは、学生たちが政府軍と戦うために築いたバリケードを訪ねます。戦いの合間に眠るマリウスを見て、バルジャンは「どうか彼を無事に家に帰してください」と神に祈ります。

話は前後しますが、決起前夜のこと。カフェで政治集会を開く学生たちのもとに、政府でただ一人民衆の味方であったラマルク將軍の訃報がもたらされます。学生運動のリーダー、アンジョルラスは「ラマルク將軍の死を無駄にはいけない、さあ立ち上がろう!」と学生たちに呼びかけます。それに応えた学生たちが「自由のために共に戦おう!」と『民衆の歌(合唱)』を歌います。

しかし、バルジャンがバリケードにマリウスを訪ねた翌朝、政府軍の攻撃で学生たちはあっけなく全滅してしまいます。バルジャンは傷つき気を失ったマリウスを抱えて下水道に逃げ込みます。コゼットの懸命な介護により回復したマリウスに、バルジャンは自分が罪人であることを告白しコゼットを託して姿を消します。

マリウスとコゼットの婚礼の日。あの日バリケードで自分の命を救ってくれたのはバルジャンであったと知ったマリウスは、コゼットを連れ急ぎバルジャンを訪ねます。ふたりに見守られ安らかに息を引き取るバルジャンのもとには、いつしか先に亡くなった者たちが現れ、民衆の歌の旋律(歌詞は異なる)を最初は静かに、最後は高らかに歌い上げ、舞台は幕を閉じます。

L.v.ベートーヴェン作曲
交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱付」
「真の愛」を求める旅路、歓喜の歌

ベートーヴェンの交響曲第9番(通称「第九」)は、彼が残した最も偉大な作品であり、音楽史における金字塔として位置づけられています。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは1770年にドイツで生まれ、即興ピアニストとして名を馳せ、後に「交響曲の父」ハイドンに学びました。しかし、20代後半で難聴を患い、音楽家としての困難な時期が訪れます。それでも彼は創作を続け、交響曲第3番「英雄」などを発表し、「傑作の森」と呼ばれる最盛期に突入します。

ベートーヴェンは、宮廷作曲家のように皇帝に仕えることなく、自己の意志を貫きました。その結果、彼の作品には短調のものが多く、自己表現の色彩が強く反映されています。交響曲第9番は、彼の再起を象徴する作品であり、特に交響曲に声楽を取り入れたことで注目されました。それ以前にも声楽を交響曲に加えた作曲家はいましたが、第9番が初めて広く認識された作品として音楽史に名を刻んでいます。

交響曲第9番は、全四楽章で75分に及ぶ大作であり、その長さや構成も当時の交響曲としては異例でした。音楽の構成を「旅路」に例えると、第一楽章は「空虚5度」という不安定な和音から始まり、何色にも染まらない状態からの旅の始まりを示唆しています。第二楽章では「ディオニソスのリズム」が使われ、強調されたティンパニやオーボエソロが特徴的です。この楽章には合唱を加える構想があったものの実現せず、代わりにトロンボーンが使われ、音楽に深みを与えています。

第三楽章では、フリーメイソンの影響が見られるとされ、美しい弦楽器の主題が聴衆に深い感動を与えます。三拍子のリズムが花畑を歩くような印象を生み出し、「Morendo」という指示で新たな人生を手に入れるために古い人生を終わらせる象徴が描かれています。

第四楽章、いわゆる「歓喜の歌」は「恐怖のファンファーレ」から始まり、絶望から希望へと移行します。この楽章のテーマは、ベートーヴェンが若い頃に作曲したスケッチに基づき、シラーの詩「歓喜に寄せて」を使っています。ベートーヴェンはシラーの詩を改訂し、彼自身の感情を色濃く反映させました。この「歓喜の歌」は、彼が求めた「真の愛」や「楽園」を象徴しており、死後の世界での心の豊かさを示唆しています。

交響曲第9番は、ベートーヴェンの人生における「真の愛」を求める旅路の象徴です。彼は恋愛に恵まれなかったため、この作品を通じて「楽園」や「真の幸福」を探し求めました。第三楽章で描かれる「楽園」や「娘たち」という言葉は、彼が失われた愛への想いを表現していると解釈できます。この作品は、愛と心の豊かさを求めるベートーヴェンの心情を反映したものであり、聴く者に深い感動を与える力を持っています。

最終的に、交響曲第9番は単なる音楽作品ではなく、ベートーヴェンの哲学的な探求や人生に対する深い想いを表現したものです。彼は音楽を通じて「真の愛」や「真の幸福」を求め、そのメッセージを聴衆に伝えようとしていました。この作品を通じて、私たちはベートーヴェンの探し求めた「真実の愛」や「真の幸福」を感じ取ることができるのです。



出演者紹介 Profile



指揮 井村 誠貴 Masaki Imura

指揮者。1994年大阪音楽大学コントラバス科卒業。在学中よりオペラ指揮者として各地で研鑽を積む。オペラレパートリーは50演目を超え、中でも喜歌劇楽友協会におけるJ.シュトラウスII「ウィーン気質」の邦人初演は注目を集めた。2001年イタリアに留学。現地ではAs. Li. Coの北イタリア・オペラ公演ツアーに同行し、副指揮者として高い評価を得た。2013年には年間オペラ公演回数が日本人第1位になる。管弦楽では、京都フィルハーモニー室内合奏団、大阪交響楽団、オペラハウス管弦楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団等を客演。さらにOsaka Shion Wind Orchestra (旧大阪市音楽団)、シエナ・ウィンド・オーケストラ等の吹奏楽団との関係も深くその分野でも注目を集めている。ミュージカルでは「レ・ミゼラブル」「マイ・フェア・レディ」「フ・カージュ・オ・フォール」等のロングラン公演を指揮。また、岩崎宏美や、南こうせつ、夏川りみとの共演や、キダ・タローとのコンサートも話題となっている。2014年には、自身の企画により「ベートーヴェン振るマラソン!」と題して、1日でベートーヴェンの全交響曲を1人で指揮。そのギネス級の活動は大きな話題となった。2011年東日本大震災を受け、毎年チャリティコンサートを開催。9回の演奏会で5,400万円を超える義援金を届けた。指揮を湯浅勇治氏をはじめ、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸の各氏に師事。現在、オーケストラMFI指揮者。春日井市民第九演奏会音楽監督、関西音楽人のちから「集」代表。



ソプラノ 奥村 育子 Ikuko Okumura

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院を首席で修了。大幸財団第22回丹羽奨励生。第7回岐阜国際音楽祭コンクール 声楽部門一般I 第1位、奏楽堂日本歌曲コンクール第27回歌唱部門 入選、その他多数コンクールにて入賞。オペラ《奥様女中》《魔笛》オペレッタ《こうもり》《白馬亭にて》《伯爵令嬢マリツァ》《天国と地獄》他、「第九」、宗教曲ソロなど多数出演。また、宮川彬良氏作曲《あしたの瞳》花井君代役で出演するなど、現代の作品への出演も多い。NHK-FM「リサイタル・パッシオ」に出演。これまでに水野麻美、末吉利行の各氏に師事。現在は東海地方を中心にオペラ、オペレッタに出演する他、オーケストラとの共演や歌のお姉さんとしてファミリーコンサートに出演するなど、活動は多岐に渡る。後進の指導も行う。愛知県立芸術大学、金城学院大学、同朋高等学校 非常勤講師、もりっこ彩合唱団指導者。



アルト 森 季子 Tokiko Mori

京都市立芸術大学大学院修了。修了時大学院賞受賞。青山音楽賞新人賞ほか受賞多数。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科に留学。宗教曲等では「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」「メサイア」「第九」「モツレク」などのソリストを務める。オペラでは「フィガロの結婚」(2008年びわ湖ホールオペラピエンナーレでデビュー)『魔笛』(あいちトリエンナーレ、NISSAY OPERA)『泥棒かささぎ』(大阪国際フェスティバル)『フルキューレ』『ラインの黄金』(共にびわ湖リング)『マクベス』(日生劇場)『カルメン』(新国立劇場、他)など各地の劇場に出演。びわ湖ホールでは「ヘンゼルとグレーテル」『子どもと魔法』『ホフマン物語』『三文オペラ』『竹取物語』『死の都』など、多彩な役で好演を果たす。びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー。



テノール 城 宏憲 Hironori Jo

東京藝術大学卒業、新国立劇場オペラ研究所修了。第84回日本音楽コンクール第1位及び岩谷賞(聴衆賞)、第8回静岡国際オペラコンクール三浦環特別賞、岐阜県芸術文化奨励賞、関市民特別奨励賞受賞。文化庁新進芸術家海外研修にて渡伊。帰国後、東京二期会による『トスカ』『椿姫』『蝶々夫人』『トゥーランドット』『ドン・カルロ』『カルメン』に加え、日生劇場『ランメルモールのルチア』『メデア(日本初演)』、新国立劇場『さまよえるオランダ人』等、数々の舞台でプリモ・テノールとして出演。またオペラ出演の他にベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「エリア」等でもテノール・ソロを務める。本年11月には、全国共同制作「高野聖」表題役で金沢・高崎公演に出演予定。二期会会員。



バリトン 西元 佑 Tasuku Nishimoto

名古屋芸術大学音楽学部演奏学科声楽コース卒業。同大学院修了。様々なオペラ公演に参加し『フィガロの結婚』フィガロ「コジ・ファントゥッテ」ドン・アルフォンソ、グリエルモ「ドン・ジョヴァンニ」レポレロ「白馬亭にて」レオポルト「メリー・ウィドウ」ツェータ「天国と地獄」ブルート「ごんぎつね」兵十などを演じる。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIV J.シュトラウスII世 喜歌劇「こうもり」に参加。橋爪圭子、澤脇達晴各氏に師事。



客演コンサートマスター 平光 真弥 Shinya Hiramitsu

愛知県立芸術大学音楽学部を経て同大学大学院音楽研究科修了。中村桃子賞受賞。ヴァイオリンを青山泰宏、大久保ナオミ、福本泰之、Ewald Danel、岡山芳子の各氏に師事。指揮を故紙谷一衛氏に師事。第11回日本クラシック音楽コンクール第3位。第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位。併せて聴衆賞、オーナー賞獲得。2007年、2010年及び2012年小淵沢室内楽セミナーにて最優秀カルテットとして「緑の風 音楽賞」受賞。2012年には講師特別賞を同時受賞。2000年～岐阜管弦楽団、2004年～2021年愛知室内オーケストラコンサートマスター、2022年4月～中部フィルハーモニー交響楽団首席客演コンサートマスターを務める。愛知県立芸術大学非常勤講師。平成29年度愛知芸術文化選奨受賞。

